



真の国際協力とは

小崎 真乃香

研修前、私は一つの問いを抱えていた。外務省の開発協力方針に、マレーシアは日本の国益上重要なため国際協力を行うと書かれていたからだ。財源は税金である以上、日本に有益な活動をすべき一方、支援するか否かを日本に有益かだけで判断しているように感じてしまい、国際協力は相手国の発展が第一義的目的だと思っていた私は、国際協力とは何か分からなくなっていた。

しかし本研修で、この問いのヒントを得た。キーワードは「繋がり」と「信頼関係」だと思う。例えば、現地高校生のバディが趣味で日本語を勉強していたように、現地では親日家が多かった。これは、東方政策に加え、日本がインフラ等を支援したことも影響していると感じた。またマレーシア日本工科院では、最新鋭の研究設備について現地学生が、それらは高額だが日本の円借款で購入できたことや、どう研究に使っているかをいきいきと説明してくれた。これらから、援助自体が役立っていること以上に、両国間の「繋がり」や「信頼関係」が構築されていると気がついた。

そう考えると私の問いは、国際協力の本質を分かっていたから生まれたのかもしれない。強い信頼関係は両国にとって政治、経済、文化的に重要なため、信頼の構築が本質の一つだと考えれば、国際協力をするのは自然なことに思えてくる。

研修に参加させて頂き、国際協力への私なりの理解が少し深まったが、まだ知らない部分も多い。今後も勉強を続けたい。